

i s s e n
ベランダ1000
プロジェクト



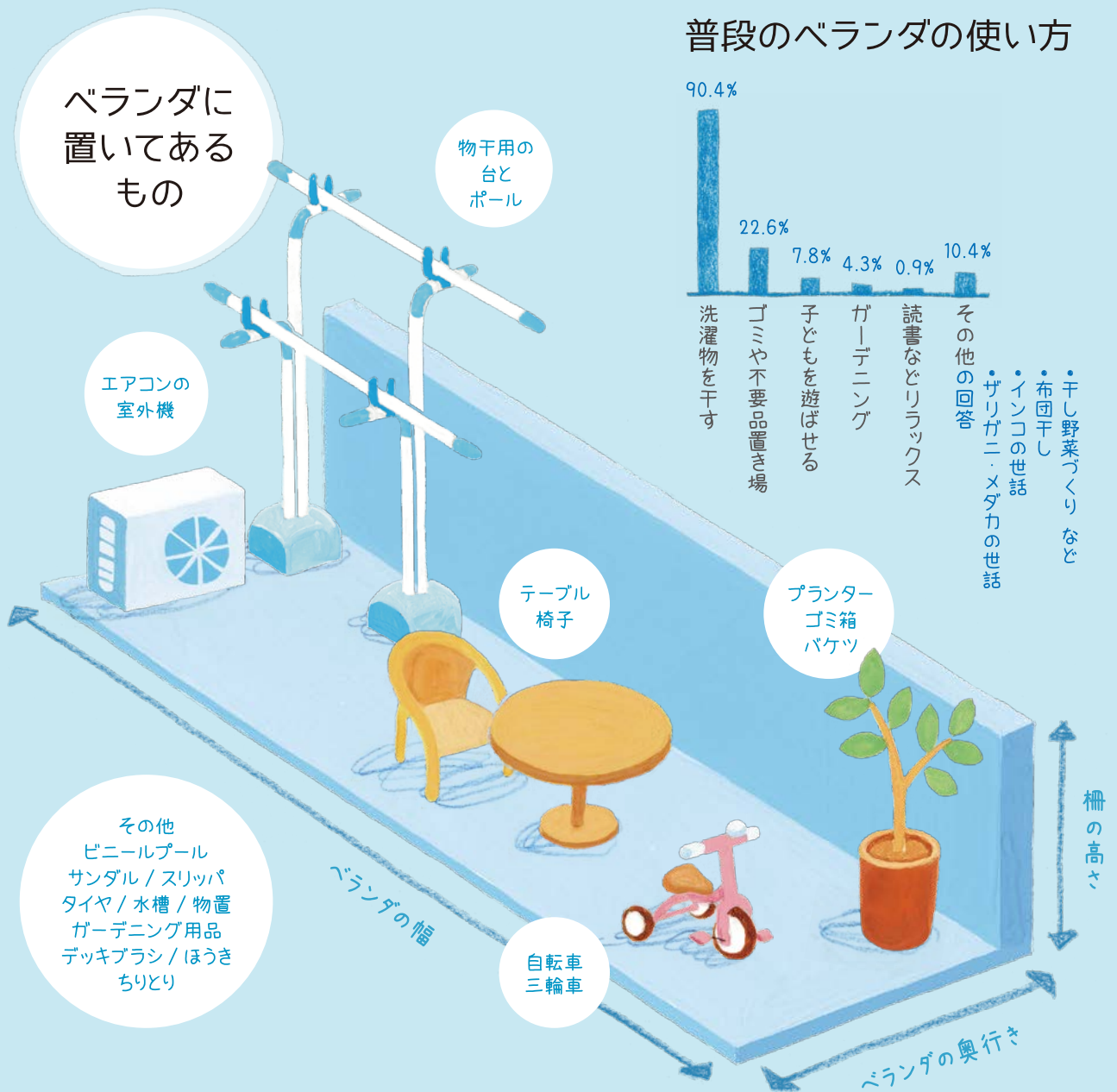
ベランダからの転落は、命の危険が高く、
子どもが転落しないように「予防」することが大切です。

東京都の調査によると、平成19年以降にベランダからの転落による受傷で救急搬送された又は受診した12歳以下の事例は145件でした。そのうち2歳児がもっとも多く、次いで3歳児、4歳児と続き10歳児でも事故が起きています。入院を要する事例は7割を超え、死亡に至った事例は2件ありました。

Safe Kids Japan では、子どもがベランダから転落する事故が相次いでいることを受け、何が問題で、どうすれば転落を予防することができるのかを探るため、インターネットを通じて、自宅ベランダの写真や、柵の高さ、ベランダの奥行きなどのデータを収集しました。

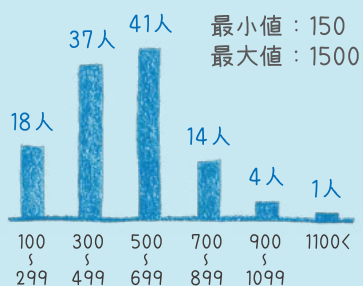
みんなのベランダはどうなってるの？

転落予防につながるヒントを見つけるため、みなさんがお使いのベランダの状況そのままを調査してみました。

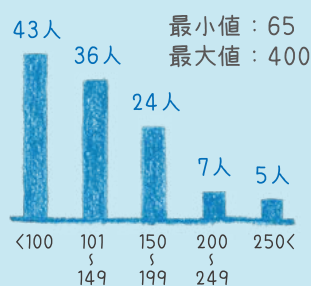


ベランダと柵のサイズ

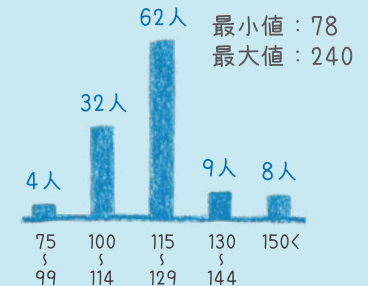
ベランダの幅 (cm)



ベランダの奥行き (cm)



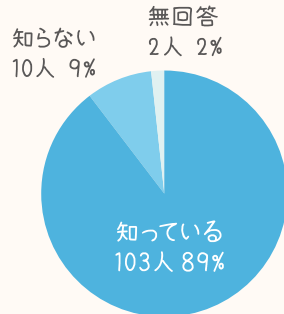
柵の高さ (cm)



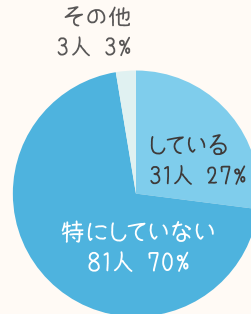
調査期間：2017/5/12 - 2017/12/31 調査人数：115人 (115家庭)

対策はできていますか？

ベランダの転落事故を
知っているか



対策をしているか



ベランダの転落事故を予防するための対策をしていないと答えた人が7割という結果になりました。
対策を知り多くの人に予防していただくため 実際どんなことが起こりえるか事例とともに問題点をみていきましょう。

CASE1



大変きれいなベランダですね。プランターなどもなく、危険源となるものはなさそうに見えます。しかし私たちはこのベランダの柵のデザインに注目しました。この柵の高さは130cmということですが、床面から70cmあたりまではコンクリート製で、その上に幅20cmほどの水平部分があります。実験によると、4歳児は平均で69cmの高さを乗り越えることができますので、この70cmの高さにある水平部分に登り、手すりの上に身を乗り出す、ということも十分考えられます。

また、ベランダの奥に設置された室外機の上に登り、物干し用ポールに手を伸ばして水平部分に、という可能性もあります。

CASE2



こちらのベランダには問題点がふたつあります。まずひとつは、プランターが多数置かれていることです。特に柵近くに置かれた大型のプランターは足がかりになりますので大変危険です。窓近くに引き寄せる、室内に移す、などの対策が必要です。

もうひとつの問題点は、ベランダの柵のデザインです。左手奥に窓のようにくり抜かれた部分がありますね。よく見ると数cmへこんでいて、ここに足がかげられるかもしれません。この部分もアクリル板等で覆っておいた方がよいでしょう。

CHECK POINT

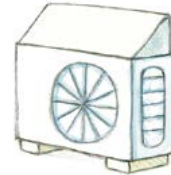
チェックポイント

お家のベランダに当てはまる項目があるかチェックしてみてください。

ベランダに置いたものに登って 柵を乗り越えてしまう (室外機、植木鉢、ゴミ箱等)

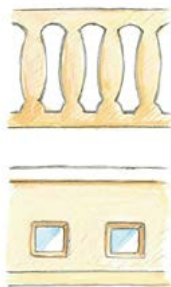
- 子どもが登れる物を置かない
- 子どもが登れないようにする
 - 室外機の上に斜めに板を取り付ける
 - 高い柵で囲う
- 置いてあるモノを柵から 60 センチ以上離す

今回の調査から、柵からモノを 60 センチ以上離せないほど奥行きが狭いベランダが多いことが分かりました。奥行きが狭い場合には、物を置かない・子どもが登れないようにする工夫がとても大切です。



デザインに注目! 柵のデザインを足掛かりに 柵を乗り越えてしまう

- 柵の内側に透明なアクリル板等を設置し、足が入らないようにする
- 柵上部の空間全体を塞ぐ転落防止ネットを設置する
* 消防法に注意が必要



ベランダに子どもが 一人で出られないように!

- 窓の手の届かない高い位置に補助錠等の設置
- 二重ロックの利用

